

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
	心理学	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	八木順子	実務経験	無	時間数	30
実務経験					
学修内容	心理学の視点から人について学びます。 人の発達課題・問題 精神疾患 コミュニケーション技法				
到達目標	心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、試験・提出物・出席等で総合的に評価します。				
使用 テキスト等	オリジナルプリント(レジメ)を配布する。				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	オリエンテーション、心理学について				
2	自分自身を知る				
3	からだところ				
4	身体関連障害				
5	発達について				
6	こころの発達 （胎児期・新生児期）				
7	こころの発達 （乳児期・幼児期）				
8	こころの発達 （学童期）				
9	神経発達障害				
10	児童虐待				
11	こころの発達 （青年期）				
12	不安障害				
13	摂食障害				
14	コミュニケーション技法				
15	まとめ				

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
科目名	保健概論	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	丸畑仁美	実務経験	無	時間数	30
実務経験					
学修内容	人体について学び、解剖学や生理学などの専門基礎科目へ発展させることができるように学習する。				
到達目標	人体を構成する名称や部位、そして構造や働きを理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	人体解剖カラーリングブック 『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	オリエンテーション 総論(骨格系・筋系)				
2					
3	解剖学(骨格系)	脊 柱 胸 郭 上肢(上肢帯、自由上肢) 上肢関節(肩鎖、肩、肘、手関節、指関節) 下肢(下肢帯、自由下肢) 下肢関節(膝、股関節、足部、指関節) 頭蓋骨 頭頸部			
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
科目名	英語	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	牧 祥子	実務経歴	無	時間数	30
実務経験					
学修内容	現代医療の現場では、医療用語を英語で表現することが多く見受けられ、当然、はりきゅうの現場においても例外ではない。医療現場において英語表記されたものを理解できるように学習する。				
到達目標	はりきゅう師に必要な医療英語を日本語から英語、英語から日本にでき、英和・和英ともに医療英語の理解と表現ができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・定期試験で行う。				
使用テキスト等	『東洋医学で英語を学ぶ』[医歯薬出版株式会社] オリジナルプリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	オリエンテーション・基本的な医療英語				
2	基本的な医療英語				
3	医療で頻出する略語				
4	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter5の英文読解				
5	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter5の英文読解				
6	医療英会話				
7	医療英会話				
8	骨の名称				
9	骨の名称				
10	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter8の英文読解				
11	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter8の英文読解				
12	医療英会話				
13	医療英会話				
14	前期のまとめ学習				
15	まとめ・総括				

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
科目名	解剖学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	嶋彩香	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	人体を構成する細胞や組織の形態・構造を学習する。 中枢神経系を構成する器官の形態・構造を学習する。				
到達目標	人体を構成する細胞や組織の解剖学的特徴(形態・構造など)が説明できる。 各器官の解剖学的特徴(形態・構造など)が説明できる。 基礎医学科目なのでしっかり理解する。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、学期末試験・出席点・平常点で行う。				
使用 テキスト等	『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点	国試にも出題されるので、要点をまとめる。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 人体の構造	1. 細 胞 2. 組 織 3. 体表構造(皮膚) 4. 人体の区分と方向			
2					
3					
4					
5					
6					
7	第8章 神経系	1. 神経系の構成 2. 中枢神経系			
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画

科	はり、きゅう科		
対象学年	1年	学 期	前期
科目の別	講義	単位数	1
実務経歴	有	時間数	30

科目名	解剖学
担当教員	家入志帆
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり
学修内容	循環器系を構成する器官の形態・構造および血管系の構成・走行を学習する。 呼吸器系を構成する器官の形態・構造を学習する。
到達目標	各器官の解剖学的特徴(形態・構造など)が説明できる。
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、学期末試験・出席点・平常点で行う。
使用テキスト等	『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕
留意点	

授業計画			
回数	大項目	中項目	
1	第2章 循環器系	1. 血管系 2. 心臓 3. 動脈系 4. 静脈系 5. 胎児循環 6. リンパ系	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13	第3章 呼吸器系	1. 鼻腔・副鼻腔 2. 咽頭・喉頭 3. 気管と気管支 4. 肺	
14			
15			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
科目名	生理学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	小野健治	実務経歴	無	時間数	30
実務経験					
学修内容	組織・器官・内分泌系などがどのように働き、人体に作用しているかを学習する。				
到達目標	人体の細胞・組織・内蔵などの基本的な機能と作用、関連性について理解し、また骨・筋・神経から人体の運動器の働きや関連性について理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用テキスト等	『生理学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 オリジナルプリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 生理学の基礎	A. 生理機能の特徴			
2		B. 細胞の構造と機能			
3		C. 物質代謝			
4		D. 体液の組成と働き			
5		E. 物質移動			
6	第10章 神経	A. ニューロンの構造と働き B. 神経線維の興奮伝導 C. シナプス伝達 D. 中枢神経系の分類と機能 E. 反 射 F. 脊 髄 G. 脳 幹 H. 小 脳 I. 視 床 J. 視床下部 K. 大 脳 L. 脳脊髄液 M. 末梢神経系 N. 自律神経系			
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
科目名	生理学	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	吉田和生	実務経験	有	時間数	60
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	組織・器官・内分泌系などがどのように働き、人体に作用しているかを学習する。				
到達目標	人体の細胞・組織・内蔵などの基本的な機能と作用、関連性について理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・課題・定期試験等で行う。				
使用 テキスト等	『生理学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1・2	第2章 循環	A. 血液の組成と働き			
3・4		B. 止 血			
5・6		C. 線維素溶解			
7・8		D. 血液型			
9・10		E. 心臓血管系			
		F. 心臓の構造と働き			
		G. 血液循環			
		H. 循環調節			
		I. リンパ系			
11・12	第3章 呼吸	A. 呼吸器			
13・14		B. 換気とガス交換			
15・16		C. 呼吸運動とその調節			
17・18	第4章 消化と吸収	A. 消化と吸収			
19・20		B. 消化管			
21・22		C. 消化液			
		D. 吸 収			
		E. 肝臓の働き			
		F. 摂食の調節			
23・24	第5章 代謝	A. 食品と栄養素			
25・26		B. 代 謝			
27・28		C. 各栄養素の働きと代謝			
29・30	第14章 生体の防御機構	A. 生体防御機構 B. 免疫反応の分類			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
科目名	東洋医学基礎概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	川瀬有美子	実務経験	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう師として東洋医学の知識と志を得て、東洋医学臨床論へ繋げ、東洋医学的臨床ができるように学習する。				
到達目標	東洋医学の用語を理解し説明できる。 東洋医学の特徴と考えを理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 東洋医学の特徴	第1節 東洋医学の沿革 第2節 人体の見方 第3節 東洋医学的治療 第4節 日本の東洋医学の現状	・ 東洋医学の歴史		
2			・ 人と自然の統一性		
3			・ 有機的な統一体としての人体		
4			・ 虚実と標本		
5			・ 個に対する医療		
6			・ 治療論 ・ 治療法		
7	第3章 東洋医学の思想	第1節 陰陽学説 第2節 五行学説	・ 陰陽学説の基本内容		
8			・ 東洋医学における 陰陽学説の運用		
9			・ 五行学説の基本内容		
10			・ 東洋医学における 五行学説の運用		
11	第2章 生理と病理	第1節 生理物質と神	・ 生理物質(精・気・血・津液)		
12			・ 神		
13			・ 人体における陰陽		
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
科目名	経絡経穴概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	家入志帆	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	一経一経もしくは一穴一穴の重要性を学び、はり・きゅう臨床で活用できるように学習する。				
到達目標	経絡経穴の名称、属性、取り方、更には解剖学的部位を覚え、経穴名から部位を、部位から経穴名を導きだすことができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、学期末試験・出席点・平常点で行う。				
使用テキスト等	『新版 経絡経穴概論』日本理療科教員連盟 東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 経絡・経穴の基礎	1. 経絡・経穴の誕生 2. 臓腑の概要 3. 経絡の概要 4. 経穴の概要			
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10	第2章 経脈・経穴(穴性を含む)	. 経穴の取り方に必要な用語	1. 解剖学的肢位と方向に関する用語 2. 体表指標 3. 体表区分 4. 別説の経穴部位		
11					
12					
13		. 十四経脈とその経穴	1. 督 脈 2. 任 脈 3. 手の太陰肺経 4. 手の陽明大腸経		
14					
15					

2025年度 授業計画

		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	前期
科目名	生体観察学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	嶋彩香	実務経験	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう施術において、体表から適切な各部位の把握ができ、損傷部位の鑑別や施術部位の判断ができる。				
到達目標	体表および局所解剖から骨格・筋の位置と名称を学習する。人体各部位のランドマークや体表の筋肉を正確に触知できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。評価方法は、定期試験で行う。				
使用テキスト等	『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 オリジナルプリント				
留意点					

授業計画			
回数	大項目	中項目	
1	人体の区分	人体の切断面と方向 人体の区分	
2	上 肢	上肢の骨格、筋、脈管、神経系	
3			
4			
5			
6	下 肢	下肢の骨格、筋、脈管、神経系	
7			
8			
9			
10	体 幹	胸部、腹部、骨盤部の骨格筋、 脈管、神経系	
11			
12			
13	頭頸部	頭部、頸部の骨格、筋、脈管、 神経系	
14			
15			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	運動学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	嶋彩香	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅうの臨床で必要となる身体の動き・構造を学習する。				
到達目標	人体の筋肉・骨・関節の構造を学び理解し説明できることでリハビリテーションの運動を学ぶ準備ができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 『リハビリテーション概論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 配付プリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	解剖学第10章 運動器系 10- . 総論 (解剖学)	1. 骨格系			
2	10- . 全身の骨格(解剖学)	1. 脊 柱 2. 胸 郭 3. 上肢の骨格 4. 下肢の骨格 5. 頭蓋骨			
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11	解剖学第10章 運動器系 10- . 総論 (解剖学)	2. 筋 系			
12	A. 運動学の基礎(リハ概)	1. 関節と運動の力学			
13		2. 姿勢とその異常			
14		3. 運動路と感覚路			
15		4. 反射と随意運動			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	病理学概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	渡邊 起基	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう師として、知っておかなければならない疾病を分子レベルから個体レベルまでの変化を学習する。				
到達目標	各疾病の原因や形態、機能、代謝、炎症、腫瘍など生体変化を理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、定期試験で行う。				
使用テキスト等	『病理学概論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 病理学とはどのような学問か				
2	第2章 疾病(病気)についての基本的な考え方	1. 疾病(病気)の概念			
3		2. 疾病(病気)の分類 3. 疾病(病気)の症候(症状)と経過			
4	第3章 病 因	1. 病因の一般			
5		2. 内 因			
6		3. 外 因 4. 小児疾患			
7	第4章 循環障害	1. ヒトの循環系 2. 充血・うっ血			
8		3. 貧血・虚血 4. 出 血			
9		5. 血栓症 6. 塞栓症 7. 梗 塞 8. 水腫・浮腫・脱水症 9. ショック			
10	第5章 退行性病变	1. 萎 縮			
11		2. 変 性			
12		3. 壊死と死			
13	第6章 進行性病变	1. 肥大と増殖			
14		2. 再 生			
		3. 化 生			
15		4. 移 植 5. 創傷治癒・組織内異物の処理			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科					
		対象学年	2年	学 期	前期			
科目名	臨床医学総論	科目の別	講義	単位数	1			
担当教員	河合芽生	実務経験	有	時間数	30			
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり							
学修内容	はり・きゅう臨床に必要な鑑別法や施術に関する知識を学び患者の病態を推測し、対応できるように学習する。							
到達目標	患者から得られる、問診・身体診察・症状・所見などの評価を理解し、どこにどのような病態が生じているかを判断できる。							
成績評価	評価は定期試験を100点満点で評価し、60点以上を合格とする。							
使用テキスト等	『臨床医学総論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕オリジナルプリント							
留意点								
授業計画								
回数	大項目	中項目						
1	第1章 診察の概要	1. 診察の意義						
2		2. 診察の一般的心得 3. 関連用語 4. 診察法の種類 5. 診察の順序						
3	第2章 診察の方法	1. 医療面接						
4		2. 視 診 3. 触 診 4. 打 診 5. 聴 診 6. 測定法 7. 神経系の診察						
5								
6	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察	1. 体 温						
7		2. 脈 拍						
8		3. 血 圧						
9		4. 呼 吸						
10	第4章 全身の診察	1. 顔色・顔貌						
11		2. 精神状態						
12		3. 言 語						
13		4. 身体計測						
14		5. 体型・体格						
15		6. 栄養状態						
		7. 姿勢と体位						
	8. 歩 行							
	9. 皮膚、粘膜、皮下組織							
	10. 爪の状態							
	11. リンパ節							
	12. その他の一般的状態							

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	臨床医学各論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方華	実務経験	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう臨床で必要となる疾患の病態を現代医学的に推測できるように学習する。				
到達目標	はり・きゅう師として知っておかなければならない疾患について、概念・原因・症状・検査法・治療法、予後などを理解し、説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・課題・定期試験等で行う。				
使用テキスト等	『臨床医学各論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第2章 消化器疾患	A．口腔疾患			
2		B．食道疾患			
3		C．胃・十二指腸疾患			
4		D．腸疾患			
5		E．腹膜疾患			
6	第3章 肝・胆・膵疾患	A．肝臓疾患			
7		B．胆道疾患			
8		C．膵臓疾患			
9					
10					
11	第4章 呼吸器疾患	A．感染性呼吸器疾患			
12		B．閉塞性呼吸器疾患			
13		C．拘束性呼吸器疾患			
14		D．その他の呼吸器疾患			
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	臨床医学各論	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	池田弘明	実務経験	有	時間数	60
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう臨床を行う上で必要な西洋医学的疾患について学習する。				
到達目標	はり・きゅう師として知っておかなければならない疾患について、概念・原因・症状・検査法・治療法、予後などを理解し、説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用テキスト等	『臨床医学各論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 スライドレジメ				
留意点	映写機器の設置をすること。 小テストは1週間毎に行う。 できるだけこまめに復習をすること。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1・2	第6章 内分泌疾患	A．下垂体疾患			
3・4					
5・6		B．甲状腺疾患			
7・8		C．副腎疾患			
9・10					
11・12	第7章 代謝・栄養疾患	A．糖代謝異常			
13・14		B．脂質代謝異常			
15・16		C．尿酸代謝異常			
17・18					
19・20		D．その他の代謝異常			
21・22	第8章 整形外科疾患	A．総 論			
23・24		B．関節疾患			
		C．骨代謝性疾患・骨腫瘍			
25・26		D．筋・腱疾患			
		E．形態異常			
27・28		F．脊椎疾患			
	G．脊髄損傷				
	H．外 傷				
29・30		I．その他の整形外科疾患			

2025年度 授業計画

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	経絡経穴概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	家入志帆	実務経験	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	一経一経もしくは一穴一穴の重要性を学び、はり・きゅう臨床で活用できるように学習する。				
到達目標	経絡経穴の意味や名称、属性、取り方、更には解剖学的部位を覚え、経穴名から部位・取り方を、部位・取り方から経穴名を導きだせることができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『新版 経絡経穴概論』日本理療科教員連盟 東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕 経穴人形 タックシール				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第2章 経脈・経穴(穴性を含む)	. 十四経脈とその経穴		11. 手の厥陰心包経	
2					
3				12. 手の少陽三焦経	
4					
5					
6				13. 足の少陽胆経	
7					
8				14. 足の厥陰肝経	
9					
10		. 奇経八脈			
11		経絡病証 十二経脈の病証			
12		経絡病証 奇経八脈の病証			
13		. 奇 穴			
14					
15	第3章 経絡・経穴の現代的研究	1. 現代医学的意義と現代医学的研究 2. 関連する反応点・反応帯と施術			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	東洋医学臨床概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	早野徳俊	実務経験	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう臨床で必要となる疾患の病態を東洋医学的に推測できるように学習する。				
到達目標	東洋医学的診察法を理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第4章 四 診	第1節 望診		. 神 ~ 舌診	
2					
3		第3節 問診		. 問診の進め方 ~ . その他の問診事項	
4					
5					
6					
7	第5章 弁証論治	第1節 弁 証 (2章4節 病因病機、 5章3節弁証論治の進め方 を含む)		. 弁証方法 気血津液弁証 肝・胆の弁証 脾・胃の弁証 六淫・六経・衛気営血・三焦弁証 標本と主客	
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	東洋医学臨床概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	早野徳俊	実務経験	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう臨床で必要となる疾患の病態を東洋医学的に推測できるように学習する。				
到達目標	東洋医学的な治療原則や治療方針、治療方法について理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第4章 四 診	第2節 聞診		. 声診 ~ . 気味	
2					
3		第4節 切診		. 反応 ~ . 脈診	
4					
5					
6					
7	第5章 弁証論治	第1節 弁 証 (2章4節 病因病機、 5章3節弁証論治の進め方 を含む)		. 弁証方法 八綱弁証 肺・大腸の弁証 腎・膀胱の弁証 経脈病証	
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	検査学概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	河合芽生	実務経験	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	現代医学の診察及び治療に関する情報を検査法を通して得ることができるように学習する。				
到達目標	ROM、MMT、徒手検査、神経学的検査の方法と評価を覚え、実際に行える。 身体各部の診察手順と評価を理解し説明と行動ができる。				
成績評価	定期試験を100点満点で評価し60点以上を合格とする。				
使用 テキスト等	『臨床医学総論』東洋療法学校協会編 [医歯薬出版株式会社] 『問診・診察ハンドブック』[医道の日本社]				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第6章 神経系の診察法	1. 感覚検査法			
2		2. 反射検査			
3		3. 脳神経系の検査 4. 髄膜刺激症状検査 5. その他の検査 高次脳検査			
4	第7章 運動機能検査	1. 運動麻痺			
5		2. 筋肉の異常			
6		3. 不随意運動			
7		4. 協調運動 5. 起立と歩行 6. 関節可動域検査 7. 徒手筋力検査法 8. 日常生活動作 9. 徒手による整形外科的検査法			
8	第9章 臨床検査法	1. 一般検査			
9					
10		2. 血液生化学検査			
11		3. 生理学的検査および 画像診断の概要			
12					
13	第12章 臨床心理	1. 患者の心理			
14		2. 心理学的検査・評価方法 3. カウセリング			
15		4. その他の療法			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	通年
科目名	東洋総合演習S-	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	二村浩之	実務経験	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	実習や講習等に参加することで、はり師・きゅう師になる為の基礎力と応用力を身につけ、医療業界の多種多方面で活躍できるようにする。				
到達目標	解剖見学実習、基礎医学実習に参加し、人体の構造やしくみが考察できる。 生体制御学会、校内研究発表大会に参加し、はり・きゅうの効果を科学的に考察できる。 AED講習に参加し、救急処置の行動ができる。 臨床実習前試験に合格する。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、出席状況およびレポートで行う。				
使用テキスト等	プリント レジメ				
留意点	発表される実施要項をしっかりと確認すること。 AEDの認定は臨床実習に必要となります。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	解剖見学実習（3時間） 基礎医学実習（説明：1時間、実習：6時間） 生体制御学会（6時間） AED講習（4時間） 校内研究発表大会（4時間×2日） 臨床実習前試験（4時間）				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11	日程等は後日発表。内容については変更となる場合もあります。				
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	リハビリテーション概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	松井尚人	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	リハビリテーション医学の一般的な基礎事項を理解させ、治療を行う態度と能力を育てる。				
到達目標	リハビリテーションの概念・基本を説明でき、障害の評価と各種療法を理解し、説明できる。				
成績評価	定期試験を100点満点で評価し60点以上を合格とする。				
使用テキスト等	『リハビリテーション医学』東洋療法学校協会〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 リハビリテーション医学の理念と方法	A．リハビリテーションと障害	1．リハビリテーションを支える基本理念		
2			2．障害と生活のとらえ方		
3			3．リハビリテーションの分野		
4		B．リハビリテーション医学と医療	1．リハビリテーション医学の概念		
5			2．リハビリテーション医学とチームアプローチ		
6			3．リハビリテーションの進め方		
7		C．障害の評価	4．地域ケアと地域リハビリテーション		
8			1．心身機能・身体構造の評価		
9			2．活動(activity)の評価		
10			3．参加(participation)の評価		
11			4．合併症(廃用症候群)の評価		
12		D．医学的リハビリテーション	5．運動麻痺の評価		
13			6．運動年齢テスト(運動発達テスト)		
14			7．失行失認テスト(高次脳機能評価)		
15			8．心理的评价		
			9．摂食・嚥下障害の評価		
			1．理学療法		
			2．作業療法		
			3．言語聴覚療法		
			4．装具療法と義肢		
			(装具・杖・自助具・車いす・義肢)		
			5．リハビリテーション看護		
			6．摂食嚥下障害		
			7．ソーシャルワーク		
			8．リハビリテーション工学		

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	衛生学・公衆衛生学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	嶋彩香	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	個人および集団の健康を対象とした予防医学、環境の改善、生活水準の保障、健康教育の推進について学習する。				
到達目標	最新の国民動向の把握と、医療従事者としての衛生管理を理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は定期試験で行う。				
使用テキスト等	『衛生学・公衆衛生学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 配付プリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	1. 衛生学・公衆衛生学とは 2. 衛生学・公衆衛生学の歴史 3. 衛生学・公衆衛生学の活動と意義			
2					
3					
4	第2章 健 康	1. 健康の概要 2. 健康管理			
5					
6					
7	第3章 ライフスタイルと健康	1. 食品と栄養 2. 運動と健康			
8					
9					
10	第4章 環境と健康	1. 環境とは 2. 日常生活環境 3. 環境問題			
11					
12	第5章 産業保健	1. 産業保健の意義、 2. 労働衛生行政 3. 労働環境と健康 4. 労働災害とその対策 5. 業務上疾病とその対策			
13					
14	第6章 精神保健	1. 精神保健の意義 2. 精神の保健 3. 精神障害の現状			
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	関係法規	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	清水洋二	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	法が何かから『あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律』そして医事法規と医療制度について学習する。				
到達目標	特に我々に深く関連する『あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律』について知る。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、学期末試験・出席点で行う。				
使用テキスト等	『関係法規』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 参考プリント				
留意点	国家試験に出題される科目なので要点をしっかりと理解して下さい。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	序 論 法とは何か	1. 法の意義 2. 法の体系			
2					
3	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	1. 法制定の目的 2. 免許と試験 3. 業 務 4. 学校、養成施設 5. 指定試験(登録)機関 6. 審議会及び試験委員 7. 罰 則			
4					
5					
6					
7					
8					
9	第2章 関係法規	1. 医事法規と医療制度 2. 医療法 3. 医師法(歯科医師法) 4. その他の医療従事者に関する法律 5. 薬事法規 6. 衛生関係法規 7. 社会福祉関係法規 8. 社会保険関係法規 9. その他の関係法規 〔付録1〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法制度の沿革 〔付録2〕 法令等			
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	はりきゅう理論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	半藤花奈	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅうの基礎知識・臨床応用・リスク管理・EBM・治効理論・関連学説などを学習する。				
到達目標	はり・きゅう臨床を実践する際に必要な、治効理論やEBM、リスク管理等を説明する事が出来る。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、課題提出・定期試験で行う。				
使用テキスト等	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点	解剖学、生理学、病理学の知識が必要となるので復習をしておくこと。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 概 論	1. 鍼灸施術の意義 2. 鍼灸治療の特徴			
2	第2章 鍼の基礎知識	1. 用具―鍼と鍼管 2. 古代九鍼			
3	第3章 刺鍼の方式と術式	1. 刺鍼の方式 2. 刺鍼の術式			
4	第4章 特殊鍼法	1. 小児鍼 2. 皮内鍼法、円皮鍼法 3. 灸頭鍼法 4. 低周波通電療法 5. その他			
5	第5章 灸の基礎知識	1. 灸の材料 2. 線 香			
6	第6章 灸術の種類	1. 有痕灸 2. 無痕灸			
7	第7章 リスク管理	1. 安全対策の基本 2. 感染対策 3. 有害事象の種類と対処法			
8					
9	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	1. はじめに 2. 生体の調節 3. 感 覚 1) 体性感覚 2) 内臓感覚	関連学説を含む		
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	現代医学臨床論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	平松希望	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	症候に対する現代医学の考え方に基づいた診察および病態生理を把握し、鍼灸施術適応の優先順位の判断に必要な基礎知識を習得させ、医療従事者としての能力と態度を育てる。また、鍼灸施術適応の優先順位が高い病態に対して、現代医学の考え方に基づいた鍼灸治療を学習する。				
到達目標	症候の病態把握とはり・きゅうの適応を理解し、治療の判断がおこなえる。 治療部位・治療穴が選択できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、定期試験で行う。				
使用テキスト等	『臨床医学総論』の「第10章おもな症状の診察法」東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 『新版・東洋医学臨床論(はりきゅう編)』〔南江堂〕 参考図書:図解 鍼灸療法技術ガイド ・ 〔文光堂〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	現代医学的な考え方	治療原則、治療計画			
2	運動器の症候	22. 肩こり 23. 頸肩腕痛 24. 肩関節痛 25. 上肢痛 26. 腰下肢痛 27. 腰下肢痛 28. 関節痛(上肢) 29. 関節痛(下肢) 30. 運動麻痺(上肢・下肢) (不足) 腰痛 膝痛 下肢痛 歩行障害	変形性腰椎症、 腰椎椎間板ヘルニア、 椎間関節性腰痛、 坐骨神経痛、 腰部脊柱管狭窄症、 下肢の絞扼性神経障害、 肘関節、 手関節、 指関節関節(リウマチを含む)、 膝関節、 足関節、 変形性膝関節症、 末梢神経麻痺		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12	スポーツ医学における鍼灸療法	スポーツ医学の概要 スポーツ外傷・障害(競技と関連)	特徴および分類・予防と治療、 野球肩・インピンジメント、 テニス肘、野球肘、狭窄性腱鞘炎など、 脊椎分離症、すべり症など、 ジャンパー膝・アキレス腱炎・オスグット病・シンスプリント・コンパートメント症候群など、骨折・打撲・捻挫・靱帯損傷など		
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	現代医学臨床論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	加藤俊亮	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	症候に対する現代医学の考え方に基づいた診察および病態生理を把握し、鍼灸施術適応の優先順位の判断に必要な基礎知識を習得させ、医療従事者としての能力と態度を育てる。また、鍼灸施術適応の優先順位が高い病態に対して、現代医学の考え方に基づいた鍼灸治療を学習する。				
到達目標	症候の病態把握とはり・きゅうの適応を理解し、治療の判断がおこなえる。 治療部位・治療穴が選択できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。 小テスト・課題 30点、平常点 10点、定期試験 60点、欠席1回につき - 5点とする。				
使用テキスト等	『臨床医学総論』の「第10章おもな症状の診察法」東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 『新版・東洋医学臨床論（はりきゅう編）』[南江堂] 参考図書：図解 鍼灸療法技術ガイド				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	神経の症候	1．頭 痛			
2		2．顔面痛			
3		3．歯 痛			
4		顔面麻痺			
5		44．嚥下困難 49．意識障害			
6	感覚器の症候	4．眼精疲労			
7		6．めまい			
8		7．耳鳴り 8．難 聴			
9		41．眼 振			
10	生殖器の症候	16．月経異常	月経痛、帯下を含む		
11			17．不正性器出血、不妊を含む		
12		骨盤位(逆子)・乳汁分泌不全	つわり		
13		E D			
14	腎・泌尿器の症候	18．排尿障害	頻尿、排尿痛を含む		
15		19．乏尿・無尿 20．多 尿			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	東洋医学臨床論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	早野徳俊	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	各症候の東洋医学的な病証・経穴の特性など施術に必要な基礎知識を身に付けさせる。				
到達目標	各症候の東洋医学的症状所見と病態を理解し、東洋医学的弁証ができる。 各症候の症状所見と東洋医学との関係性が理解できる。 治療部位・治療穴が選択できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『新版・東洋医学臨床論(はりきゅう編)』[南江堂] 『新版 経絡経穴概論』 日本理療科教員連盟 東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕 『新版 東洋医学概論』 東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第2章 治療各論	2. 主要症候に対する鍼灸療法 「東洋医学的な考え方」のみ	第1節 疼痛 頭痛 顔面痛 関節痛 頸肩腕痛 上肢痛 肩関節痛 腰下肢痛 腰痛 下肢痛 膝痛 胸痛 腹痛 (12) 第4節 その他の症候 顔面麻痺 歩行障害 口渇 出血傾向 (4)		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14		3.スポーツ医学における鍼灸療法			
15		4.老年医学における鍼灸療法	認知症		

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	社会はき学	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	服部吉隆	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はき師を取り巻く環境について学習する。 はき師の業務(保険取扱い等)について学習する。 はき師の役割について学習する。				
到達目標	社会におけるはき師の役割・業務を理解する。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。 定期試験(60点)、平常点等(40点)で総合的に評価する。				
使用 テキスト等	『社会あはき学』東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 総論	1. 日本におけるあん摩・鍼灸の歴史と現状概観			
2	第2章 あはき師を取り巻く環境	2. 現代社会のあん摩マッサージ指圧・鍼灸における社会的背景と展望			
3		1. 現代社会における医療制度の現状 2. 医療保険制度および介護保険制度の概要 3. 社会保障制度下におけるあはき治療 4. 医療機関におけるあはき師の役割			
4	第3章 地域で期待されるあはき師の業務	1. 施術所におけるあはき治療			
5		2. 在宅医療 3. 介護保険制度下での業務 4. 併用するその他の療法			
6	第4章 現代社会におけるあはき師の役割	1. 高齢化社会におけるあはき師の役割 2. 少子化社会におけるあはき師の役割 3. 女性の健康管理におけるあはき師の役割 4. ストレス社会におけるあはき師の役割 5. スポーツ傷害に対するあはき師の役割			
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13	第5章 施術所の経営展開	1. 施術所開設に必要な法律知識 2. 経営各論			
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	通年
科目名	東洋総合演習S-	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	二村浩之	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり師・きゅう師として、基礎力・応用力を身につけ、多種多方面で活躍できるようにする。				
到達目標	各模擬試験に参加し、学力と技術の向上をはかることができる。 学術大会・校内研究発表大会等に参加し、はり・きゅうの学識を深めることができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、 、 、 、 各々の試験の得点率を100点と換算して、その平均にて算出した点数と出席1時間につき0.5点×出席時間(最大15点)を合算したものとする。				
使用 テキスト等	プリント レジメ				
留意点	発表される実施要項をしっかりと確認すること。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1回学力確認試験（2時間） 学校協会はき実技評価（4時間） 校内研究発表大会（4時間×2日） 学校協会統一模擬試験（6時間） 第1回校内模擬試験（6時間） 第2回校内模擬試験（6時間）				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11	日程等は後日発表。内容については変更となる場合もあります。				
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	課題研究	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	高柳好博	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	基礎実験や臨床実験、文献検索などを行い、実験結果や、はり・きゅうの効果をまとめ、自分たちなりの表現で発表し論文作成ができるように学習する。				
到達目標	はり・きゅうに関係する研究を行い、PowerPointにて研究発表を行い、Wordにて論文の作成が出来る。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・論文内容・プレゼンテーション等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	配付プリント				
留意点	書庫、特別教室、実技実習室を使用する場合、学校備品を使用する場合は、担当教員の許可を得ること。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	オリエンテーション				
2	実験(調査)の開始				
3					
4					
5					
6					
7	実験(調査)の集計、検証				
8					
9					
10	発表デザインの作成、 卒業論文の作成				
11					
12					
13	10月 校内研究発表大会 卒業論文提出				
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	基礎医学総合演習S-	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	吉田和生	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり師・きゅう師の国家試験に合格するため、3年次までに学習した各科目を統合的に学習する。 在宅治療での移乗動作等を知り、実際に行う。治療院経営等に関わる税の仕組みを知る。				
到達目標	過去の国家試験問題や各模擬試験を基に各科目の重要な単元・出題傾向を把握する。 3年次までに学習した科目を統合的に理解し、説明する事が出来る。 在宅治療における必要な介護知識・技術などを身につけ総合的な対応ができる。 治療院の経費、税に対して理解する事ができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・小テスト・学力確認試験・各模擬試験・定期試験等で行う。				
使用 テキスト等	各科目の教科書 国家試験過去問題 各模擬試験問題				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	オリエンテーション				
2	1. 介護および治療院の概要	介護基礎			
3					
4					
5					
6					
7		治療院経営			
8					
9	2. はり・きゅう師国家試験の概要	国試対策			
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	心理学	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	八木順子	実務経験	無	時間数	30
実務経験					
学修内容	心理学の視点から人について学びます。 人の発達課題・問題 精神疾患 コミュニケーション技法				
到達目標	心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、試験・提出物・出席等で総合的に評価します。				
使用 テキスト等	オリジナルプリント(レジメ)を配布する。				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	性別違和				
2	統合失調症スペクトラム障害				
3	強迫関連障害				
4	うつ病障害・双極性障害				
5	パーソナリティ障害				
6	こころの発達（成人期）・物質関連障害 及び嗜癖				
7	ドメスティック・バイオレンス・性暴力				
8	トラウマ・外傷後ストレス障害・解離性障害				
9	こころの発達（老年期）・神経認知障害				
10	老い・死・看取り				
11	倫理				
12	スポーツ心理学				
13	スポーツ心理学				
14	コミュニケーション技法				
15	まとめ・テスト前練習問題・解説				

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	保健概論	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	丸畑仁美	実務経験	無	時間数	30
実務経験					
学修内容	人体について学び、解剖学や生理学などの専門基礎科目へ発展させることができるように学習する。				
到達目標	人体を構成する名称や部位、そして構造や働きを理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	人体解剖カラーリングブック 『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	解剖学(筋系)				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	統計学	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	平松裕紀子	実務経験	無	時間数	30
実務経験					
学修内容	確率統計学は社会科学や経済学、自然科学、学問の諸分野と密接な関連をもっており情報化社会生活には欠かせない学問であり、それらの情報を処理し確率と統計を見出すことができるように学習する。				
到達目標	与えられたデータの見方・とらえ方・整理の仕方を理解し、集団の特徴を分析することができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とし、評価方法は、出席・定期試験・課題レポートをもって総合的に評価をする。				
使用テキスト等	『社会科学系学生のための統計学』[共立出版株式会社] オリジナルプリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 確率統計の基本概念				
2	第2章 データの処理	(1)母集団と標本			
3		(2)データの整理			
4		(3)データの特性値			
5		(4)プリント学習			
6	第5章 連続型分布	(1)正規分布			
7		(2)正規分布			
8		(3)教科書以外の正規分布に関する問題			
9		(4)四分範囲と箱ひげ図			
10					
11	第10章 検 定	(1)検定の手順			
12		(2)平均の検定			
13		(3)平均の差の検定			
14		(4)差の平均の検定			
15		(5)試験対策プリントで学習			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	英語	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	牧 祥子	実務経歴	無	時間数	30
実務経験					
学修内容	現代医療の現場では、医療用語を英語で表現することが多く見受けられ、当然、はりきゅうの現場においても例外ではない。医療現場において英語表記されたものを理解できるように学習する。				
到達目標	はりきゅうに必要な医療英語を日本語から英語、英語から日本にでき、英和・和英ともに医療英語の理解と表現ができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。評価方法は、授業態度・定期試験で行う。				
使用テキスト等	『東洋医学で英語を学ぶ』[医歯薬出版株式会社] オリジナルプリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter2の英文読解				
2	筋肉の名称と役割				
3	筋肉の名称と役割				
4	身体各部の体位・方位を示す共通用語				
5	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter3の英文読解				
6	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter3の英文読解				
7	医療英会話				
8	医療英会話				
9	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter15の英文読解				
10	「東洋医学で英語を学ぶ」よりchapter15の英文読解				
11	医療英会話				
12	医療英会話				
13	神経系				
14	後期のまとめ学習				
15	まとめ・総括				

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	解剖学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	嶋彩香	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	伝導路の構成・走行を学習する。 末梢神経系の構成・走行を学習する。 感覚器系を構成する器官の形態・構造を学習する。				
到達目標	各器官の解剖学的特徴(形態・構造など)が説明できる。 基礎医学科目なのでしっかり理解する。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、学期末試験・出席点・平常点で行う。				
使用 テキスト等	『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点	国試にも出題されるので、要点をまとめる。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第8章 神経系	3. 伝導路 4. 末梢神経系			
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11	第9章 感覚器系	1. 視覚器 2. 平衡聴覚器 3. 味覚器 4. 嗅覚器			
12					
13					
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	解剖学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	家入志帆	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系を構成する器官の形態・構造を学習する。				
到達目標	各器官の解剖学的特徴(形態・構造など)が説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、学期末試験・出席点・平常点で行う。				
使用 テキスト等	『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第4章 消化器系	1.消化管の基本構造 2.口 腔 3.咽 頭 4.食 道 5.胃 6.小 腸 7.大 腸 8.肝 臓 9.胆 嚢 10.膵 臓 11.腹 膜			
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9	第5章 泌尿器系	1.腎 臓			
10		2.尿 路			
11	第6章 生殖器系	1.男性生殖器			
12		2.女性生殖器			
13		3.受精と発生			
14					
15	第7章 内分泌系	1.下垂体 2.松果体 3.甲状腺 4.上皮小体 5.副 腎 6.膵 臓 7.性 腺			

2025年度 授業計画

		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	生理学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	小野健治	実務経歴	無	時間数	30
実務経歴					
学修内容	組織・器官・内分泌系などがどのように働き、人体に作用しているかを学習する。				
到達目標	人体の細胞・組織・内蔵などの基本的な機能と作用、関連性について理解し、また骨・筋・神経から人体の運動器の働きや関連性について理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用テキスト等	『生理学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 オリジナルプリント				
留意点					

授業計画

回数	大項目	中項目	
1	第11章 筋	A．骨格筋の構造と働き	
2		B．筋の収縮の仕組み	
3		C．筋のエネルギー供給の仕組み	
4		D．心筋と平滑筋	
5			
6	第12章 運動	A．骨格筋の神経支配	
7		B．運動の調節	
8		C．錐体路系と錐体外路系	
9		D．発声と言語	
10			
11	第13章 感覚	A．感覚の分類と一般的性質	
12		B．体性感覚	
13		C．内臓感覚	
14		D．痛 覚	
15		E．味覚と嗅覚	
		F．聴 覚	
		G．平衡感覚	
		H．視 覚	

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	生理学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	吉田和生	実務経験	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	組織・器官・内分泌系などがどのように働き、人体に作用しているかを学習する。				
到達目標	人体の細胞・組織・内蔵などの基本的な機能と作用、関連性について理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・課題・定期試験等で行う。				
使用 テキスト等	『生理学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第6章 体 温	A. 体温調節			
2		B. 体熱の産生と放散 C. 発汗とその調節 D. 体温調節障害			
3	第7章 排 泄	A. 腎臓の働き			
4		B. 腎循環			
5		C. 尿生成			
6		D. 尿生成と体液の調節			
7		E. 蓄尿と排尿			
8	第8章 内分泌	A. ホルモンの特徴			
9		B. ホルモンの種類と働き			
10					
11					
12	第9章 生殖・成長と老化	A. 生 殖			
13		B. 妊娠と出産 C. 成 長 D. 老 化			
14	第15 章 身体活動の協調	A. 順応と適応			
15		B. 恒常性維持 C. バイオリズム			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	東洋医学基礎概論	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	川瀬有美子	実務経験	有	時間数	60
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう師として東洋医学の知識と志を得て、東洋医学臨床論へ繋げ、東洋医学的臨床ができるように学習する。				
到達目標	東洋医学の用語を理解し説明できる。 東洋医学の特徴と考えを理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1・2	第2章 生理と病理	第2節 蔵 象 第3節 経 絡	. 五臓とその機能に関連した領域 1)肝(肝系統) 2)心(心系統) 3)脾(脾系統) 4)肺(肺系統) 5)腎(腎系統) 6)三 焦		
3・4					
5・6					
7・8					
9・10					
11・12					
13・14			. 五臓の相互関係		
15・16			. 六腑の協調関係		
17・18			. 全身の気機		
19・20			. 経絡の概念		
21・22			. 経絡の機能		
23・24			. 経絡の構成		
25・26			. 経絡の病理		
27・28					
29・30					

2025年度 授業計画

		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	経絡経穴概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	家入志帆	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	一経一経もしくは一穴一穴の重要性を学び、はり・きゅう臨床で活用できるように学習する。				
到達目標	経絡経穴の名称、属性、取り方、更には解剖学的部位を覚え、経穴名から部位を、部位から経穴名を導きだすことができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・小テスト・定期試験等で行う。				
使用テキスト等	『新版 経絡経穴概論』日本理療科教員連盟 東洋療法学校協会編 [医道の日本社]				
留意点					

授業計画

回数	大項目	中項目	
1	第2章 経脈・経穴(穴性を含む)	. 十四経脈とその経穴	5. 足の陽明胃経
2			
3			
4			6. 足の太陰脾経
5			
6			
7			7. 手の少陰心経
8			8. 手の太陰小腸経
9			9. 足の太陽膀胱経
10			
11			
12			10. 足の少陰腎経
13			
14			
15			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	運動学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	嶋彩香	実務経験	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅうの臨床で必要とされる筋肉・関節の運動を理解し正常を知る事で異常を学習する。				
到達目標	正常を知るために身体の構造・機能を知り理解をして異常運動の違いを理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『解剖学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 『リハビリテーション概論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 配付プリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	10- . 体幹（解剖学） B . 身体各部の機能(リハ概)	1 . 体幹の筋			
2		2 . 体幹の運動			
3		3 . 体幹の局所解剖			
4	10- . 上肢（解剖学） B . 身体各部の機能(リハ概)	1 . 上肢の筋			
5		2 . 上肢の運動			
6					
7		3 . 上肢の局所解剖			
8					
9	10- . 下肢（解剖学） B . 身体各部の機能(リハ概)	1 . 下肢の筋			
10		2 . 下肢の運動 (正常歩行と異常歩行を含む)			
11					
12		3 . 下肢の局所解剖			
13					
14	10- . 頭頸部（解剖学） B . 身体各部の機能(リハ概)	1 . 頭頸部の筋			
15		2 . 頭頸部の体表および局所解剖			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	病理学概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	渡邊 起基	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう師として、知っておかなければならない疾病を分子レベルから個体レベルまでの変化を学習する。				
到達目標	各疾病の原因や形態、機能、代謝、炎症、腫瘍など生体変化を理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『病理学概論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第7章 炎 症	1. 炎症の一般 2. 炎症の分類			
2					
3					
4					
5	第8章 腫 瘍	1. 腫瘍の一般 2. 良性腫瘍 3. 悪性腫瘍			
6					
7					
8					
9	第9章 免疫異常・アレルギー	1. 液性免疫と細胞性免疫 2. アレルギー 3. 免疫不全 4. 自己免疫異常			
10					
11					
12					
13	第10章 先天性異常	1. 先天性異常総論 2. 遺伝性疾患 3. 染色体異常			
14					
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科					
		対象学年	2年	学 期	後期			
科目名	臨床医学総論	科目の別	講義	単位数	1			
担当教員	河合芽生	実務経験	有	時間数	30			
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり							
学修内容	はり・きゅう臨床に必要な鑑別法や施術に関する知識を学び患者の病態を推測し、対応できるように学習する。							
到達目標	患者から得られる、問診・身体診察・症状・所見などの評価を理解し、どこにどのような病態が生じているかを判断できる。							
成績評価	定期試験を100点満点で評価し60点以上を合格とする。							
使用テキスト等	『臨床医学総論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕							
留意点								
授業計画								
回数	大項目	中項目						
1	第5章 局所の診察	1. 頭 部						
2		2. 顔 面						
3		3. 眼						
4		4. 鼻						
5		5. 耳						
6		6. 口 腔						
7		7. 頸 部						
8	第8章 その他の診察	8. 胸 部						
9		9. 乳 房						
10		10. 肺・胸膜						
11		11. 心 臓						
12		12. 腹 部						
13		13. 背 部						
14		14. 四 肢						
15	第10章 おもな症状の診察法	1. 救急時の診察						
16		2. 女性の診察						
17		3. 小児の診察						
18		4. 高齢者の診察						
19	第11章 治療学	11. 動 悸						
20		17. 不正期出血						
21		19. 乏尿・無尿						
22		20. 多 尿						
23	第11章 治療学	21. 浮 腫						
24		27. 関節痛						
25		38. 出血傾向						
26		39. 易感染症						
27	第11章 治療学	41. 眼 振						
28		45. 血痰・咯血						
29		上記以外の項目は、はき臨床論に委ねる						
30								
31	第11章 治療学	1. 概 要						
32		2. 薬物療法						
33		3. 食事療法						
34		4. 理学療法						
35		5. その他の療法						

2025年度 授業計画

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	臨床医学各論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方華	実務経験	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう臨床で必要となる疾患の病態を現代医学的に推測できるように学習する。				
到達目標	はり・きゅう師として知っておかなければならない疾患について、概念・原因・症状・検査法・治療法、予後などを理解し、説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・課題・定期試験等で行う。				
使用テキスト等	『臨床医学各論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					

授業計画

回数	大項目	中項目	
1	第5章 腎・尿器疾患	A．原発性糸球体腎炎 B．腎不全 C．感染症 D．腫瘍性疾患 E．結石症 F．前立腺疾患	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9	第11章 神経疾患	A．脳血管疾患 B．感染性疾患 C．脳・脊髄腫瘍 D．基底核変性疾患 E．その他の変性疾患 F．認知症(痴呆)性疾患 G．筋疾患 H．運動ニューロン疾患 I．末梢神経性疾患 J．神経痛 K．機能性疾患	
10			
11			
12			
13			
14			
15			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	臨床医学各論	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	池田弘明	実務経験	有	時間数	60
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅう臨床を行う上で必要な西洋医学的疾患について学習する。				
到達目標	はり・きゅう師として知っておかなければならない疾患について、概念・原因・症状・検査法・治療法、予後などを理解し、説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用テキスト等	『臨床医学各論』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 スライドレジメ				
留意点	映写機器の設置をすること。 小テストは1週間毎に行う。 できるだけこまめに復習をすること。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1・2	第1章 感染症	A．総 論 B．細菌感染症 C．ウイルス感染症 D．性感染症			
3・4					
5・6					
7・8	第9章 循環器疾患	A．心臓疾患 B．冠動脈疾患 C．動脈疾患 D．血圧異常			
9・10					
11・12					
13・14					
15・16	第10章 血液・造血器疾患	A．赤血球疾患 B．白血球疾患 C．リンパ網内性疾患 D．出血性素因			
17・18					
19・20	第12章 リウマチ性疾患・膠原病	A．リウマチ性疾患 B．膠原病			
21・22					
23・24	第13章 その他の領域	A．小児科疾患 B．一般外科 C．麻酔科 D．婦人科疾患 E．皮膚科疾患 F．眼科疾患 G．耳鼻科疾患 H．精神科疾患 I．心療内科			
25・26					
27・28					
29・30					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	経絡経穴概論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	家入志帆	実務経験	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	一経一経もしくは一穴一穴の重要性を学び、はり・きゅう臨床で活用できるように学習する。				
到達目標	経絡経穴の部位と解剖学的部位との関連を覚え、神経の走行と経穴、筋肉上の経穴、筋肉の動きと経穴、血管の位置と経穴など解剖経穴を理解することができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『新版 経絡経穴概論』日本理療科教員連盟 東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕 経穴人形 タックシール				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	1 全身の筋と経穴	頭部、頸部			
2		体幹			
3		体幹			
4		上肢 前腕前面			
5		上肢 前腕後面			
6		上肢 上腕部			
7		下肢 臀部、大腿前面、大腿外側			
8		下肢 大腿内側、大腿後面			
9		下肢 下腿前面、下腿後面			
10	2, 神経支配領域と経穴	デルマトーム(皮膚分節) 顔面、上肢の皮神経			
11		下肢の皮神経			
12	3, 神経の走行上の経穴	神経走行(上肢)神経走行(下肢)、その他			
13	4, 血管走行上の経穴	動脈拍動部上の経穴・深部に走行する血管(頭部、頸部、体幹部、上肢、下肢)			
14	5, その他	局所解剖			
15		並ぶ経穴			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	東洋医学臨床論	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	早野徳俊	実務経験	有	時間数	60
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	各症候の東洋医学的な病証・経穴の特性など施術に必要な基礎知識を身に付けさせる。				
到達目標	各症候の東洋医学的症状所見と病態を理解し、東洋医学的弁証ができる。 各症候の症状所見と東洋医学との関係性が理解できる。 治療部位・治療穴が選択できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、出席・授業態度・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『新版・東洋医学臨床論(はりきゅう編)』[南江堂] 『新版 経絡経穴概論』日本理療科教員連盟 東洋療法学校協会編 [医道の日本社] 『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会編 [医道の日本社] オリジナルプリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 治療総論	2. 東洋医学的な考え方	弁証の進め方 四診について		
2			弁証論治		
3			八綱弁証		
4			気血津液弁証		
5			鍼灸臨床		
6			治療穴とその応用		
7			手技と手法		
8			第2節 臓腑と関連する症候		
9			眼精疲労 気分障害(うつ病)		
10			めまい 動悸・息切れ 血圧異常		
11			常 睡眠障害 食欲不振 肥満 や		
12			せ 悪心嘔吐 便秘 下痢 歯痛		
13			咳と痰 呼吸困難 鼻閉・鼻汁		
14			脱毛 耳鳴り難聴 排尿障害		
15			ED		
			(20)		
			弁証応用 (複数臓腑、経絡)		
			弁証応用 (複数臓腑、経絡)		

授業計画			
回数	大項目	中項目	
16	第1章 治療総論	2. 東洋医学的な考え方	治則と治法
17			治則と治法
18	第2章 治療各論	2. 主要症候に対する鍼灸療法 「東洋医学的な考え方」のみ	第3節 全身の症候 疲労と倦怠感 発熱 冷え のぼせ 浮腫 掻痒感・肌荒れ・発疹 (6) 第5節 女性特有の症候 月経異常 性器出血 帯下 不妊 骨盤位 乳汁分泌不全 つわり (7) 第6節 小児特有の症候 小児神経症 夜尿症 (2)
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

2025年度 授業計画

		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	課題研究	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	高柳好博	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	各グループで研究するテーマを検討し、研究計画書を作成する。研究計画書の作成に必要な文献検索方法や研究方法についてを学習する。				
到達目標	グループでのディスカッションに参加することができる。 インターネットや書庫を利用し、テーマに沿った内容の文献検索および資料収集する事ができる。 研究計画を作成することができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、レポート・出席・取り組む態度・課題提出で行う。				
使用テキスト等	配付プリント				
留意点	書庫、特別教室、実技実習室を使用する場合、学校備品を使用する場合は、担当教員の許可を得ること。				

授業計画

回数	大項目	中項目	
1	オリエンテーション・グループ作成		
2	テーマ設定、文献検索		
3			
4			
5			
6			
7			
8	予備実験(調査)		
9			
10			
11			
12	進捗具合のレポート提出		
13	作業仮説の検証、テーマの修正		
14			
15	テーマ決定		

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	運動学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	三輪恭子	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	各疾患のリハビリテーションの基礎的事項を理解させ、施術を適切に行う態度と能力を育てる。				
到達目標	各疾患におけるリハビリテーションの必要性和実際を理解し、説明と行動が行える。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う				
使用 テキスト等	『リハビリテーション医学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第 章 各疾患のリハビリテーション	A．脳卒中のリハビリテーション	1. 脳卒中とは 2. 評価		
2			3. 急性期のリハビリテーション		
3			4. 回復期のリハビリテーション		
4		B．脊髄損傷(四肢麻痺, 対麻痺)のリハビリテーション	5. 言語療法 6. リスク管理		
5			7. ホームプログラムとアフタケア		
6			8. 脳卒中リハビリテーションのゴール		
7		C．切断のリハビリテーション	1. 脊髄損傷とは		
8			2. 脊髄損傷による症状と障害		
9			3. 急性期のリハビリテーション		
10		D．小児のリハビリテーション	4. 回復期のリハビリテーション		
11			5. ケアとリスク管理		
12			1. 切断の原因と分類 2. 合併症		
13		E．骨関節疾患	3. リハビリテーション 4. 各切断の特徴		
14			5. アフタケア		
15			1. 小児のリハビリテーションの特徴		
	F．パーキンソン病	2. 脳性麻痺のリハビリテーション			
		3. その他の小児疾患のリハビリテーション			
		1. いわゆる五十肩			
	G．呼吸器疾患のリハビリテーション	2. 腰痛			
		3. 変形性膝関節症			
		4. 変形性股関節症			
	H．心疾患のリハビリテーション	5. 大腿骨頸部骨折			
		6. スポーツ障害			
		7. 末梢神経麻痺			
	I．高齢者のリハビリテーション	8. 関節リウマチ			
		1. 慢性閉塞性肺疾患			
		2. 拘束性肺疾患のリハビリテーション			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	衛生学・公衆衛生学	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	嶋彩香	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	個人および集団の健康を対象とした予防医学、環境の改善、生活水準の保障、健康教育の推進について学習する。				
到達目標	最新の国民動向の把握と、医療従事者としての衛生管理を理解し説明できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は定期試験で行う。				
使用テキスト等	『衛生学・公衆衛生学』東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 配付プリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第7章 母子保健	1. 母子保健の意義			
2		2. 母体の保健 3. 乳幼児の健康 4. 母体保護と家族計画 5. 少子化問題と子育て支援			
3	第8章 学校保健法	1. 学校保健の意義 2. 学校保健とその構造			
4		3. 保健教育 4. 保健管理 5. 学校において予防すべき感染症 6. 学齢期の健康状態			
5	第9章 成人・高齢者保健	1. 成人・高齢者保健の意義 2. 加齢と老化			
6		3. 生活習慣病の特徴と対策 4. 老人保健福祉対策 5. 介護保険 6. 難病対策の現状			
7	第10章 感染症とその対策	1. 感染症の意義と種類			
8		2. 発生要因 3. 感染症予防の原則 4. 免 疫			
9	第11章 消毒法	1. 消毒法一般			
10		2. 消毒の種類 3. 消毒の実際 4. 医療廃棄物			
11	第12章 疫 学	1. 疫学概念と意義―病気の流行			
12		2. 疾病の頻度と測定			
13		3. 疫学調査研究の段階と実例			
14	第13章 保健統計	1. 保健統計の意義			
15		2. おもな保健統計とその意義 3. 主要な保健統計指標			

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	医療概論	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	松本卓	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	医学、医療および「はりきゅう」の歴史、医療制度の基礎的な知識を習得させるとともに、「はりきゅう」に従事する者の倫理について理解させ、治療者として必要な能力と態度を育てる。社会保障および職業倫理を学習させる。				
到達目標	はり・きゅうの歴史と現代社会における活動内容と倫理、そして、社会保障との関わりを理解し、はり・きゅう師としての自覚と態度を習得し実行する事ができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う				
使用テキスト等	『医療概論』東洋療法学校協会〔医歯薬出版株式会社〕				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第1章 医学と医療の歴史	1. 医学史序説			
2		2. 医学史の意義と特質			
3		3. 西洋の医学と医療の歴史			
4		4. 東洋の医学と医療の歴史			
5		5. 日本の医学と医療の歴史			
6	第2章 現代の医学と医療 (社会保障および職業倫理の内容を含む)	1. 現代医学の課題			
7					
8		2. 現代の医療制度			
9					
10					
11	第3章 医療従事者の倫理 (社会保障および職業倫理の内容を含む)	1. 医療倫理			
12					
13					
14		2. 施術者としての倫理			
15					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	はりきゅう理論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	半藤花奈	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり・きゅうの基礎知識・臨床応用・リスク管理・EBM・治効理論・関連学説などを学習する。				
到達目標	はり・きゅう臨床を実践する際に必要な、治効理論やEBM、リスク管理等を説明する事が出来る。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用 テキスト等	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編〔医道の日本社〕				
留意点	解剖学、生理学、病理学の知識が必要となるので復習をしておくこと。				
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	4. 熱傷 5. 体表の反応			
2					
3					
4					
5					
6	第9章 鍼灸治効機序	1. はじめに 2. 鍼鎮痛 3. 循環系と鍼灸 4. 運動系と鍼 5. 消化器系と鍼 6. 泌尿器系と鍼 7. リラクセーションと鍼灸 8. 生体防御系と鍼灸 9. 鍼灸施術の治療的作用			
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点	1. 刺激部位 2. 刺激入力 3. 鍼灸刺激による治効機序			
15			鍼、灸の治療的作用を含む		

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	現代医学臨床論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	平松希望	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	症候に対する現代医学の考え方に基づいた診察および病態生理を把握し、鍼灸施術適応の優先順位の判断に必要な基礎知識を習得させ、医療従事者としての能力と態度を育てる。また、鍼灸施術適応の優先順位が高い病態に対して、現代医学の考え方に基づいた鍼灸治療を学習する。				
到達目標	症候の病態把握とはり・きゅうの適応を理解し、治療の判断がおこなえる。 治療部位・治療穴が選択できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、定期試験で行う。				
使用テキスト等	『臨床医学総論』の「第10章おもな症状の診察法」東洋療法学校協会編〔医歯薬出版株式会社〕 『新版・東洋医学臨床論(はりきゅう編)』[南江堂] 参考図書:図解 鍼灸療法技術ガイド ・ [文光堂]				
留意点					

授業計画			
回数	大項目	中項目	
1	呼吸・循環器の症候	5. 鼻閉・鼻汁	
2		9. 咳・痰	
3		10. 息切れ(呼吸困難)11. 動 悸	43. 嚔声を含む
4		12. 胸 痛	46. 胸水を含む
5		血圧異常(高血圧・低血圧)	
6	血液・造血器の症候	37. ショック 38. 出血傾向	
7		40. 貧 血	
8		45. 血痰・咯血	
9		48. 吐血・下血	
10	消化器の症候	13. 腹 痛	
11		14. 便 秘	
12		15. 下 痢	
13		29. 食欲不振	
14		47. 悪心・嘔吐	
15	各症候における鍼灸不適応疾患および禁忌となる病態		

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	現代医学臨床論	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方華	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	症候に対する現代医学の考え方に基づいた診察および病態生理を把握し、鍼灸施術適応の優先順位の判断に必要な基礎知識を習得させ、医療従事者としての能力と態度を育てる。また、鍼灸施術適応の優先順位が高い病態に対して、現代医学の考え方に基づいた鍼灸治療を学習する。				
到達目標	症候の病態把握とはり・きゅうの適応を理解し、治療の判断がおこなえる。 治療部位・治療穴が選択できる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、小テスト・定期試験で行う。				
使用テキスト等	『臨床医学総論』の「第10章おもな症状の診察法」東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 『新版・東洋医学臨床論（はりきゅう編）』[南江堂] 参考図書：図解 鍼灸療法技術ガイド				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	全身の症候	21．浮 腫			
2		30．肥 満			
3		31．やせ（るいそう）			
4		32．発 熱			
5		33．のぼせ・冷え	冷え症・更年期障害を含む		
6	心理・精神機能の症候	34．不 眠 （睡眠障害）			
7		35．疲労・倦怠			
8		不定愁訴・うつ状態	発汗異常を含む		
9	その他の症候	36．発 疹	痒みを含む		
10		39．易感染性 42．口 渴			
11		脱毛			
12	小児の症候	小児期の症候	夜驚、小児喘息、小児扁桃炎		
13			夜尿症、かんむし等 小児神経症		
14	老年医学における鍼灸療法	老年期疾患	老年医学の特徴 老年者の疾患の特徴と鍼灸療法		
15			認知症、パーキンソン、脳卒中後遺症		

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	総合臨床論S-	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	吉田和生	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり師、きゅう師の国家試験に合格するため、3年次までに学んだ基礎医学および臨床医学の内容を統合的に学習させる。				
到達目標	国家試験について、各科目(東洋医学臨床論、総合問題)の出題傾向が把握できる。 国家試験の対策を立てることができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、授業態度・小テスト・各種模擬試験問題・定期試験等で行う。				
使用 テキスト等	1年次から3年次まで使用している教科書 各種模擬試験問題 オリジナルプリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	病証 虚証シリーズ				
2	病証 実証シリーズ				
3	複数にまたがる病証				
4	経脈・経絡関連病証				
5	奇経・腑(大腸、胃、膀胱)病証、痺証等				
6	西洋 末梢神経障害(麻痺を主に)				
7	西洋 デルマトーム				
8	整形徒手検査法				
9	整形徒手検査法				
10	整形徒手検査法				
11	整形徒手検査法				
12	スポーツ障害 筋系				
13	総合問題				
14	まとめ・総括				
15	まとめ・総括				

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	総合臨床論S-	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	家入志帆	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり師、きゅう師の国家試験に合格するため、3年次までに学習した各科目を統合的に学習する。				
到達目標	国家試験について各科目(東洋医学概論、経絡経穴概論)の出題傾向が把握できる。 国家試験の対策を立てることができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、出席状況、取り組む態度、効果測定で行う。				
使用 テキスト等	各科目教科書 オリジナルプリント				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	東洋医学の基礎 / 督脈				
2	気血津液の生理 / 任脈				
3	六臓六腑 / 肺経				
4	六臓六腑 / 大腸経				
5	臓腑経絡論・病因論 / 胃経				
6	病因論 / 脾経				
7	病理と病証 / 心経				
8	病理と病証 / 小腸経				
9	病理と病証 / 膀胱経				
10	病理と病証 / 腎経				
11	病理と病証 / 心包経				
12	病理と病証 / 三焦経				
13	四診 / 胆経				
14	四診 / 肝経				
15	治療法 / まとめ・総括				

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	基礎医学総合演習S-	科目の別	演習	単位数	2
担当教員	高柳好博	実務経歴	有	時間数	60
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	はり師、きゅう師の国家試験に合格するため、3年次までに学習した各科目を統合的に学習する。				
到達目標	国家試験について各科目（解剖学、生理学、臨床医学各論など）の出題傾向が把握できる。 国家試験の対策を立てることができる。				
成績評価	評価は100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評価方法は、出席・課題・模擬試験で行う。				
使用 テキスト等	『医療概論』東洋療法学校協会〔医歯薬出版株式会社〕 各科目教科書 国家試験過去問題・各模擬試験過去問題				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1・2	オリエンテーション 学力確認テスト				
3・4	医学史	はり・きゅうの歴史について			
5・6	過去の国家試験問題・各模擬試験 問題などの演習および解説 はり師、きゅう師の国家試験対策				
7・8					
9・10					
11・12					
13・14					
15・16					
17・18					
19・20					
21・22					
23・24					
25・26					
27・28					
29・30					

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	通年
科目名	はり基礎実習S	科目の別	実習	単位数	4
担当教員	二村 浩之	実務経歴	有	時間数	120
実務経歴	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・実習室の整理・整頓、服装、頭髮、手指の消毒などに気を配り、治療師としての心構えを養う。 ・鍼の基本的手技と技術を習得し、適切にできるまでの能力と態度を身に付ける。 ・施術部位・術者の手指・鍼具等の消毒を習慣化する。施術における諸注意を理解する。 ・はりきゅう実技(基礎編)第1章基礎実習の2、鍼の基本実技(P9～28)を練習する。				
到達目標	・片手挿管法がスムーズにできる。 ・刺鍼法の使い分けが適確にできる。 (必修到達目標) ・中和式基礎マニュアルに沿った、管鍼法・撚鍼法の一連の流れができる。 ・現行17手技ができる。 ・無理のない姿勢で手技が行える。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	セイリンディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3 - 1番、寸3 - 2番、寸6 - 2番 ユニコディスポ鍼:00番1寸 - 3分、0番1寸 - 6分 刺鍼練習器、指サック、グローブ、オートクレープ				
使用 テキスト等	はりきゅう実技 基礎編、あはき基礎実習マニュアル				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	施術上の注意、はり基本実技
2	消毒法	17	施術上の注意、はり基本実技
3	消毒法	18	施術上の注意、はり基本実技
4	施術上の注意、はり基本実技	19	刺入の実際
5	施術上の注意、はり基本実技	20	刺入の実際
6	施術上の注意、はり基本実技	21	刺入の実際
7	施術上の注意、はり基本実技	22	刺入の実際
8	施術上の注意、はり基本実技	23	刺入の実際
9	施術上の注意、はり基本実技	24	刺入の実際
10	施術上の注意、はり基本実技	25	刺入の実際
11	施術上の注意、はり基本実技	26	刺入の実際
12	施術上の注意、はり基本実技	27	まとめ・総括
13	施術上の注意、はり基本実技	28	まとめ・総括
14	施術上の注意、はり基本実技	29	まとめ・総括
15	施術上の注意、はり基本実技	30	まとめ・総括

回数	授業計画	回数	授業計画
31	刺鍼の方法	46	刺鍼中の手技
32	刺鍼の方法	47	刺鍼中の手技
33	刺鍼の方法	48	刺鍼中の手技
34	刺鍼の方法	49	刺鍼中の手技
35	刺鍼の方法	50	刺鍼中の手技
36	刺鍼の方法	51	刺鍼中の手技
37	刺鍼の方法	52	刺鍼中の手技
38	刺鍼の方法	53	刺鍼中の手技
39	刺鍼の方法	54	刺鍼中の手技
40	刺鍼の方法	55	刺鍼中の手技
41	刺鍼の方法	56	刺鍼中の手技
42	刺鍼の方法	57	まとめ・総括
43	刺鍼中の手技	58	まとめ・総括
44	刺鍼中の手技	59	まとめ・総括
45	刺鍼中の手技	60	まとめ・総括

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	1年	学 期	通年
科目名	きゅう基礎実習S -	科目の別	実習	単位数	2
担当教員	池田 弘明	実務経歴	有	時間数	60
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・施術上の注意について、その意義を理解する。 ・灸施術の準備を適切に行う。 ・有痕灸の基本型・同時複数点施灸の練習・無痕灸・灸の補瀉などについて実際に行い、身体各部に施灸を行えるように繰り返し練習する。 ・実習室の整理・整頓、服装、頭髪、手指の消毒などに気を配り、治療師としての心構えを養う。				
到達目標	指示された中和式灸法が適切にできる。 (必修到達目標) 1分間連続施灸を3壮以上行うことができる (半米粒大もしくは米粒大)				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。 出席【20%】、授業態度【30%】、実技試験【50%】(中間(7月)、本試験(12月))を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	・艾(良質・粗悪)、線香、施灸練習器、和紙、灸点ペン、灸点紙、ライター、廃綿入れ、シャーレ				
使用 テキスト等	はりきゅう実技 基礎編、あはき基礎実習マニュアル				
留意点	常に安全に気を配り、(過度の)火傷がないように心掛ける。				

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	灸術の実際・有痕灸
2	艾の解説 基本実技	17	灸術の実際・有痕灸
3	艾の解説 基本実技	18	灸術の実際・無痕灸
4	艾の解説 基本実技	19	灸術の実際・無痕灸
5	基本実技	20	灸術の実際・無痕灸
6	基本実技	21	灸術の実際・無痕灸
7	灸術の種類・実際・有痕灸	22	灸術の実際・無痕灸
8	灸の過誤、灸術の実際、有痕灸	23	灸術の実際
9	灸術の実際、有痕灸	24	灸術の実際
10	灸術の実際、有痕灸	25	灸術の実際
11	灸術の実際・有痕灸	26	灸術の実際
12	灸術の実際・有痕灸	27	灸の補瀉法
13	灸術の実際・無痕灸	28	灸の補瀉法
14	灸術の実際・無痕灸	29	まとめ・総括
15	灸術の実際・有痕灸	30	まとめ・総括

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	特殊鍼法S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	服部 吉隆	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・特殊鍼法(小児鍼、低周波鍼通電)について、その特徴を理解する。また、各種特殊鍼法を練習する。				
到達目標	・各種特殊鍼法を実際に身体各部に施術できる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼:JSPタイプ寸3 - 1番、寸3 - 2番、寸3 - 3番、寸6 - 2番、寸6 - 3番 ディスポーザブル鍼:LSPタイプ寸3 - 3番、寸3 - 4番、寸6 - 3番、寸6 - 4番 特殊鍼 : 小児鍼、 パルス、皮膚表面電極				
使用 テキスト等	はりきゅう実技 基礎編 、あはき基礎実習マニュアル				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	
2	小児鍼	17	
3	小児鍼	18	
4	小児鍼	19	
5	小児鍼	20	
6	低周波鍼通電	21	
7	低周波鍼通電	22	
8	低周波鍼通電	23	
9	低周波鍼通電	24	
10	低周波鍼通電	25	
11	低周波鍼通電	26	
12	低周波鍼通電	27	
13	低周波鍼通電	28	
14	まとめ総括	29	
15	まとめ総括	30	

2025年度 授業計画

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2・3年	学 期	通年
科目名	臨床実習S	科目の別	実習	単位数	4
担当教員	加藤 俊亮、二村 浩之、川瀬 有美子、吉田 和生、山本 匠	実務経歴	有	時間数	180
実務経歴	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・一般患者に対して、指導教員の指示のもとで、「はき」施術を実際に行う。 ・臨床実習の場で、患者の応対、検査法、施術の実際とそれらの記録の方法などを学習する。 ・治療所の清潔・整頓などを実際に行う。				
到達目標	・臨床実習の場で、患者の応対、検査法、施術の実際とそれらの記録が適切にできる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。 評価の内訳は出席状況(50点分)、施術回数(40点分)、レポート点(10点分)とする。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3 - 1～3番、寸6 - 1～3番 ディスポーザブル鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、各種検査器具および物理療法器具、艾、各種温灸、キネシオテープ				
使用 テキスト等	(中和作成)臨床入門、経絡経穴概論				
留意点	患者とのコミュニケーション力を養うことが大切である。				
授業計画	2年次の1月から3年次の12月まで1週間に4コマ程度臨床実習を実施する。 また、学年末休業中及び夏期休業中に終日臨床実習を行う日が数回ある。 2,3年次の期間で180時間以上臨床実習を実施する。				

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	きゅう基礎実習S-	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	池田 弘明	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・1年次に修得した灸施術を目的にそって身体各部に施灸が出来るよう実践的な能力を身に付ける。また、施術者としての責任と使命を認識する。				
到達目標	・人体への連続施灸ができる。(半米粒大(知熱・透熱)・七分灸) ・温灸の取り扱いについて理解し、適切に使用できる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。 出席【20%】、授業態度【30%】、本試験【50%】を勘案して評価する。				
使用機器,教材	艾(良質・粗悪)、各種温灸、施灸練習器、灸点紙、線香、廃綿入れ、シャーレ、ライター、竹筒、ガーゼ、和紙、生姜、味噌、塩				
使用テキスト等	はりきゅう実技 基礎編 、あはき基礎実習マニュアル				
留意点	常に安全に気を配り、(過度の)火傷がないように心掛ける。				

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション・1年次の復習 灸術の実際(有痕灸・無痕灸)	16	
2	灸術の実際(有痕灸・無痕灸)	17	
3	灸術の実際(有痕灸・無痕灸)	18	
4	灸術の実際(有痕灸・無痕灸)	19	
5	灸術の実際・各種温灸	20	
6	灸術の実際・各種温灸	21	
7	灸術の実際・各種温灸	22	
8	灸術の実際・各種温灸	23	
9	灸術の実際・各種温灸	24	
10	灸術の実際・各種温灸	25	
11	灸術の実際・灸の補瀉法	26	
12	灸術の実際・灸の補瀉法	27	
13	灸術の実際	28	
14	まとめ・総括	29	
15	まとめ・総括	30	

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	はり、きゅう応用実習S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・十四経の経穴について生体観察を交えながら、その取穴を練習する。 （督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、心経、小腸経） ・上記の経の主要穴に施鍼・施灸ができるように練習する。 ・上記経穴に、各種特殊鍼灸法を応用し練習する。				
到達目標	・主要経穴を実際に指示できる。 ・主要経穴に施鍼、施灸ができる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3 - 1番、寸3 - 2番、寸6 - 2番、1寸-02番 ディスポーザブル鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸3 - 4番 ツボシール、艾、パルス				
使用 テキスト等	経絡経穴概論、はりきゅう実技 基礎編				
留意点	・座学の経穴と人体の経穴の位置に留意する。				

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	
2	主要穴の施鍼・施灸、督脈	17	
3	主要穴の施鍼・施灸、任脈	18	
4	主要穴の施鍼・施灸、任脈 ・督脈	19	
5	主要穴の施鍼・施灸、肺経	20	
6	主要穴の施鍼・施灸、大腸経	21	
7	主要穴の施鍼・施灸、大腸経	22	
8	主要穴の施鍼・施灸、胃経	23	
9	主要穴の施鍼・施灸、胃経	24	
10	主要穴の施鍼・施灸、胃経	25	
11	主要穴の施鍼・施灸、脾経	26	
12	主要穴の施鍼・施灸、脾経	27	
13	主要穴の施鍼・施灸、心経	28	
14	主要穴の施鍼・施灸、小腸経	29	
15	主要穴の施鍼・施灸、小腸経 、まとめ・総括	30	

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	はり、きゅう応用実習S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	半藤 花奈	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・十四経の経穴について生体観察を交えながら、その取穴を練習する。 （膀胱経、腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経及び、奇穴・奇経八脈を含む） ・上記の経の主要穴に施鍼・施灸ができるように練習する。 ・上記経穴に、各種特殊鍼灸法を応用し練習する。				
到達目標	・主要経穴を実際に指示できる。 ・主要経穴に施鍼、施灸ができる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3 - 1番、寸3 - 2番、寸6 - 2番、寸6 - 3番、1寸-02番 ディスポーザブル鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸3 - 4番 ツボシール、艾、パルス				
使用 テキスト等	経絡経穴概論、はりきゅう実技 基礎編				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	主要穴の施鍼・施灸、膀胱経	16	
2	主要穴の施鍼・施灸、膀胱経	17	
3	主要穴の施鍼・施灸、膀胱経	18	
4	主要穴の施鍼・施灸、腎経	19	
5	主要穴の施鍼・施灸、腎経	20	
6	主要穴の施鍼・施灸、心包経	21	
7	主要穴の施鍼・施灸、三焦経	22	
8	主要穴の施鍼・施灸、胆経	23	
9	主要穴の施鍼・施灸、胆経	24	
10	主要穴の施鍼・施灸、肝経	25	
11	主要穴の施鍼・施灸、肝経	26	
12	主要穴の施鍼・施灸、奇穴 、まとめ	27	
13	主要穴の施鍼・施灸、奇経八脈(任脈・督脈除く)	28	
14	まとめ総括	29	
15	まとめ総括	30	

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	臨床実習入門S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	伊藤 奨	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・テキスト「臨床入門」に基づいてカルテの記入方法等を学習する。 ・各疾患に応じた理学検査法等を練習する。 ・臨床実習予備練習として患者との応対、検査法、治療の実際とそれらの記録の方法などを学習する。				
到達目標	各種検査法を適切に行うことができる。 患者に適切な対応ができる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3 - 1、寸3 - 2番、寸6 - 2、寸6 - 3番 ディスポーザブル鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 各種検査器具、パルス、艾、皮内鍼				
使用 テキスト等	(中和作成)臨床入門、問診診察ハンドブック				
留意点	・患者様に施術している気持ちで練習する。				

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	
2	総合	17	
3	総合	18	
4	総合	19	
5	総合	20	
6	腰下肢痛	21	
7	腰下肢痛	22	
8	腰下肢痛	23	
9	腰下肢痛	24	
10	頸上肢痛	25	
11	頸上肢痛	26	
12	頸上肢痛	27	
13	頸上肢痛	28	
14	自律神経失調症	29	
15	まとめ・総括	30	

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	特殊鍼法S -	科目の別	実習	単位数	2
担当教員	服部 吉隆	実務経歴	有	時間数	60
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・特殊鍼法(灸頭鍼、皮内鍼・円皮鍼、耳鍼、打鍼法、中国鍼、鍼の補瀉、特殊部位の刺鍼、頭鍼、良導絡)について、その特徴を理解する。また、各種特殊鍼法を練習する。				
到達目標	・各種特殊鍼法を実際に身体各部に施術できる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3 - 1番～寸3 - 3番、寸6 - 2番、寸6 - 3番 銀鍼寸3 - 1番 ディスポーザブル鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸3 - 4番、寸6 - 3番、寸6 - 4番 特殊鍼:長針(3寸5番)、中国鍼(2インチ32番・3インチ32番)、皮内鍼、円皮鍼 打鍼器、パイオネックス、マグレイン、王不留行 ノイロメーター、ひびき7号、ココロケーター、艾				
使用 テキスト等	はりきゅう実技 基礎編 、あはき基礎実習マニュアル				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	中国鍼
2	灸頭鍼	17	中国鍼
3	灸頭鍼	18	鍼の補瀉
4	灸頭鍼	19	鍼の補瀉
5	灸頭鍼	20	鍼の補瀉
6	灸頭鍼	21	鍼の補瀉
7	灸頭鍼	22	打鍼法
8	灸頭鍼	23	頭鍼
9	皮内鍼・円皮鍼	24	頭鍼
10	皮内鍼・円皮鍼	25	良導絡
11	皮内鍼・円皮鍼	26	良導絡
12	皮内鍼・円皮鍼	27	まとめ総括
13	耳鍼	28	まとめ総括
14	特殊部位の刺鍼	29	まとめ総括
15	中国鍼	30	まとめ総括

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	はり、きゅう応用実習S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経歴あり				
学修内容	・神経・疼痛疾患、呼吸器疾患に対する鍼灸施術を練習する。				
到達目標	・神経・疼痛疾患、呼吸器疾患の特徴を述べる事ができる。 ・神経・疼痛疾患、呼吸器疾患に対する代表的な鍼灸施術ができる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスプレイ鍼JSPタイプ:寸3—1番、2番、3番 寸6—2番、3番 ディスプレイ鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 艾、パルス				
使用 テキスト等	はりきゅう実技 基礎編 、東洋医学臨床論 はりきゅう編				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション、神経・疼痛疾患(胸痛・腹痛)	16	
2	神経・疼痛疾患(腰下肢痛)	17	
3	神経・疼痛疾患(腰下肢痛)	18	
4	神経・疼痛疾患(肩こり・肩関節痛・頸肩腕痛・上肢痛)	19	
5	神経・疼痛疾患(肩こり・肩関節痛・頸肩腕痛・上肢痛)	20	
6	神経・疼痛疾患(肩こり・肩関節痛・頸肩腕痛・上肢痛)	21	
7	神経・疼痛疾患(膝痛)	22	
8	神経・疼痛疾患(膝痛)	23	
9	神経・疼痛疾患(運動麻痺)	24	
10	神経・疼痛疾患(歯痛・頭痛)	25	
11	神経・疼痛疾患(顔面痛・顔面麻痺)	26	
12	呼吸器疾患(鼻閉鼻汁・咳嗽・喘息)	27	
13	呼吸器疾患(鼻閉鼻汁・咳嗽・喘息)	28	
14	まとめ総括	29	
15	まとめ総括	30	

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	はり、きゅう応用実習S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	半藤 花奈	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・泌尿器疾患、消化器疾患、その他の疾患に対する鍼灸施術を練習する。				
到達目標	・泌尿器疾患、消化器疾患、その他の疾患の特徴を述べる事ができる。 ・泌尿器疾患、消化器疾患、その他の疾患に対する代表的な鍼灸施術ができる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスプレイ鍼JSPタイプ:寸3—1番、寸3 - 2番、寸3 - 3番、寸6—2番、寸6 - 3番 ディスプレイ鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 艾、パルス、吸角				
使用 テキスト等	はりきゅう実技 基礎編 、東洋医学臨床論 はりきゅう編				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション、泌尿器疾患(月経異常・排尿障害・勃起障害)	16	
2	泌尿器疾患(月経異常・排尿障害・勃起障害)	17	
3	泌尿器疾患(月経異常・排尿障害・勃起障害)	18	
4	泌尿器疾患(月経異常・排尿障害・勃起障害)	19	
5	泌尿器疾患(月経異常・排尿障害・勃起障害)	20	
6	消化器疾患(悪心嘔吐・便秘下痢・食欲不振)	21	
7	消化器疾患(悪心嘔吐・便秘下痢・食欲不振)	22	
8	消化器疾患(悪心嘔吐・便秘下痢・食欲不振)	23	
9	その他の疾患(眼精疲労・脱毛症・耳鳴り難聴・肥満・発熱・発疹・小児)	24	
10	その他の疾患(眼精疲労・脱毛症・耳鳴り難聴・肥満・発熱・発疹・小児)	25	
11	その他の疾患(眼精疲労・脱毛症・耳鳴り難聴・肥満・発熱・発疹・小児)	26	
12	その他の疾患(眼精疲労・脱毛症・耳鳴り難聴・肥満・発熱・発疹・小児)	27	
13	その他の疾患(眼精疲労・脱毛症・耳鳴り難聴・肥満・発熱・発疹・小児)	28	
14	まとめ・総括	29	
15	まとめ・総括	30	

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	臨床実習入門S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	伊藤 奨	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・テキスト「臨床入門」に基づいてカルテの記入方法等を学習する。 ・各疾患に応じた理学検査法等を練習する。 ・臨床実習予備練習として患者との応対、検査法、治療の実際とそれらの記録の方法などを学習する。				
到達目標	各種検査法を適切に行うことができる。 患者に適切な対応ができる。 臨床実習施術前実技試験に合格する。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3 - 1、寸3 - 2番、寸6 - 2、寸6 - 3番 ディスポーザブル鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 各種検査器具、パルス、艾、皮内鍼				
使用 テキスト等	(中和作成)臨床入門、問診診察ハンドブック				
留意点	指示された部位に苦痛なく鍼施術ができる。 施灸練習器に1分間に4壮以上半米粒大にて施灸できる。 中和式あん摩を適切に行うことができる。 要穴表の経穴を実際に取り穴できる。 患者様に施術している気持ちで練習する。				

回数	授業計画	回数	授業計画
1	五十肩	16	
2	五十肩	17	
3	五十肩	18	
4	膝関節痛	19	
5	膝関節痛	20	
6	膝関節痛	21	
7	理学検査	22	
8	治療所前教育	23	
9	治療所前教育	24	
10	治療所前教育	25	
11	まとめ・総括	26	
12	まとめ・総括	27	
13	治療所実習	28	
14	治療所実習		臨床実習前施術実技試験 学科
15	治療所実習		臨床実習前施術実技試験 実技

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	はり、きゅう応用実習S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	中本 湖琴	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・1,2年次に修得した鍼灸技術、物理療法などを踏まえ、患者の状態に応じた鍼灸施術の実践的な能力を養う。また、施術者としての責任と使命を認識する。				
到達目標	・スポーツ障害および内科疾患に必要な検査、知識について述べられる。 ・スポーツ障害および内科疾患に対し安全に鍼灸の施術ができる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:1寸—01番・02番、寸3—1番・2番・3番、寸6—2番・3番 ディスポーザブル鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 艾、パルス、テープ				
使用 テキスト等	東洋医学臨床論 はりきゅう編				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	
2	スポーツ障害(肩、肘、手、腰、膝、足)	17	
3	スポーツ障害(肩、肘、手、腰、膝、足)	18	
4	スポーツ障害(肩、肘、手、腰、膝、足)	19	
5	スポーツ障害(肩、肘、手、腰、膝、足)	20	
6	スポーツ障害(肩、肘、手、腰、膝、足)	21	
7	スポーツ障害(肩、肘、手、腰、膝、足)	22	
8	テーピング	23	
9	テーピング	24	
10	精神疾患(うつ病等)	25	
11	精神疾患(うつ病等)	26	
12	精神疾患(うつ病等)	27	
13	精神疾患(うつ病等)	28	
14	まとめ・総括	29	
15	まとめ・総括	30	

2025年度 授業計画

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	はり総合演習S -	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	早野 徳俊	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・「経絡治療」の概略を知った上で、「証」に基づく選穴を考える能力を身に付ける。また、1,2年次に習得したはりきゅうの手技を駆使し、補瀉を活用できる能力を身に付ける。				
到達目標	経絡治療の概念を理解する。 診察方法を知り、証立てを意識できるようになる。 補瀉の手技ができるようになる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3—1番、寸3 - 2番 艾				
使用 テキスト等	経絡経穴概論、配付資料				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	オリエンテーション				
2	経絡治療とは				
3	診察と施術原則				
4	経絡の復習				
5	経絡の復習				
6	経絡の復習				
7	診察の練習				
8	各証の施術方法				
9	各証の施術方法				
10	各証の施術方法				
11	各証の施術方法				
12	各証の施術方法				
13	各証の施術方法				
14	まとめ・総括				
15	まとめ・総括				

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	はり、きゅう応用実習S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	山本 匠	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・1,2年次に修得した鍼灸技術、物理療法などを踏まえ、患者の状態に応じた鍼灸施術の実践的な能力を養う。また、施術者としての責任と使命を認識する。				
到達目標	・内科疾患に必要な検査、知識について述べられる。 ・内科疾患に対し安全に鍼灸の施術ができる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスプレイ鍼JSPタイプ:1寸—01番・02番、寸3—1番・2番・3番、寸6—2番・3番 ディスプレイ鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 艾、パルス、各種小児鍼				
使用 テキスト等	東洋医学臨床論 はりきゅう編				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	
2	婦人疾患(更年期障害、つわり、逆子、不妊、PMS、産後うつ)	17	
3	婦人疾患(更年期障害、つわり、逆子、不妊、PMS、産後うつ)	18	
4	婦人疾患(更年期障害、つわり、逆子、不妊、PMS、産後うつ)	19	
5	婦人疾患(更年期障害、つわり、逆子、不妊、PMS、産後うつ)	20	
6	婦人疾患(更年期障害、つわり、逆子、不妊、PMS、産後うつ)	21	
7	婦人疾患(更年期障害、つわり、逆子、不妊、PMS、産後うつ)	22	
8	小児疾患(疳の虫、夜尿症)	23	
9	小児疾患(疳の虫、夜尿症)	24	
10	耳疾患(めまい)	25	
11	循環器疾患(血圧異常)	26	
12	その他疾患(不眠、倦怠、のぼせと冷え)	27	
13	その他疾患(不眠、倦怠、のぼせと冷え)	28	
14	まとめ・総括	29	
15	まとめ・総括	30	

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	はり、きゅう応用実習S -	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	渡邊 起基	実務経歴	有	時間数	30
実務経歴	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・1,2年次に修得した鍼灸技術、物理療法などを踏まえ、患者の状態に応じた鍼灸施術の実践的な能力を養う。また、施術者としての責任と使命を認識する。				
到達目標	・内科疾患に必要な検査、知識について述べられる。 ・内科疾患に対し安全に鍼灸の施術ができる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスプレイ鍼JSPタイプ:1寸—01番・02番、寸3—1番・2番・3番、寸6—2番・3番 ディスプレイ鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 艾、パルス				
使用 テキスト等	東洋医学臨床論 はりきゅう編				
留意点					

回数	授業計画	回数	授業計画
1	オリエンテーション	16	
2	老年医学における鍼灸療法(脳血管障害、動脈硬化、認知症等)	17	
3	老年医学における鍼灸療法(脳血管障害、動脈硬化、認知症等)	18	
4	老年医学における鍼灸療法(脳血管障害、動脈硬化、認知症等)	19	
5	老年医学における鍼灸療法(脳血管障害、動脈硬化、認知症等)	20	
6	老年医学における鍼灸療法(脳血管障害、動脈硬化、認知症等)	21	
7	老年医学における鍼灸療法(脳血管障害、動脈硬化、認知症等)	22	
8	ロコモティブシンドローム	23	
9	変形性関節症	24	
10	ターミナルケア(末期がん等)	25	
11	ターミナルケア(末期がん等)	26	
12	自己免疫疾患(関節リウマチ等)	27	
13	自己免疫疾患(関節リウマチ等)	28	
14	まとめ・総括	29	
15	まとめ・総括	30	

2025年度 授業計画

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	はり総合演習S -	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	早野 徳俊	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・「経絡治療」の概略を知った上で、「証」に基づく選穴を考える能力を身に付ける。また、1,2年次に習得したはりきゅうの手技を駆使し、補瀉を活用できる能力を身に付ける。				
到達目標	経絡治療の概念を理解する。 診察方法を知り、証立てを意識できるようになる。 補瀉の手技ができるようになる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3—1番、寸3 - 2番 艾				
使用 テキスト等	経絡経穴概論、配付資料				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	各証の施術方法				
2	各証の施術方法				
3	各証の施術方法				
4	各証の施術方法				
5	各証の施術方法				
6	各証の施術方法				
7	各証の施術方法				
8	各証の施術方法				
9	各証の施術方法				
10	各証の施術方法				
11	各証の施術方法				
12	各証の施術方法				
13	各証の施術方法				
14	まとめ・総括				
15	まとめ・総括				

2025年度 授業計画

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	きゅう総合演習	科目の別	演習	単位数	2
担当教員	渡邊 和隆	実務経歴	有	時間数	30
実務経験	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	1・2年時に修得した灸の基本手技を復習かつ応用し、人体へより実践的な灸施術を行う。 火を扱う伝統施術であることを自覚し、きゅう師としての心構えを養う。				
到達目標	自身や患者に安全に灸施術できる。 人体の「どこに」、「どれだけ」灸をすえれば良いかを理解する。 リズムカルに人体に施灸できる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。				
使用 機器、教材	消毒用具、良質艾、線香、灸点ペン、施灸練習器、粗悪艾、箱灸、棒灸、LSPタイプ寸3 - 3				
使用 テキスト等	経絡経穴概論、配付資料 など				
留意点					
授業計画					
回数	大項目	中項目			
1	オリエンテーション				
2	灸のエビデンス、実技全般				
3	灸の施術原則、実技全般				
4	熱さの感度 、実技全般				
5	熱さの感度 、実技全般				
6	艾炷について、実技全般				
7	灸のドーゼ、実技全般				
8	箱灸、実技全般				
9	冷えの治療、実技全般				
10	伝統的灸治療、実技全般				
11	逆子の灸、実技全般				
12	艾作り、実技全般				
13	全身施灸、実技全般				
14	総括・まとめ				
15	総括・まとめ				

2025年度 授業計画

2025年度 授業計画		科	はり、きゅう科		
		対象学年	2・3年	学 期	通年
科目名	臨床実習S	科目の別	実習	単位数	4
担当教員	加藤 俊亮、二村 浩之、川瀬 有美子、吉田 和生、山本 匠	実務経歴	有	時間数	180
実務経歴	はり、きゅうの実務経験あり				
学修内容	・一般患者に対して、指導教員の指示のもとで、「はき」施術を実際に行う。 ・臨床実習の場で、患者の応対、検査法、施術の実際とそれらの記録の方法などを学習する。 ・治療所の清潔・整頓などを実際に行う。				
到達目標	・臨床実習の場で、患者の応対、検査法、施術の実際とそれらの記録が適切にできる。				
成績評価	評価は100点満点で行い60点以上を合格とする。出席、授業態度、各試験等を勘案して評価する。 評価の内訳は出席状況(50点分)、施術回数(40点分)、レポート点(10点分)とする。				
使用 機器,教材	ディスポーザブル鍼JSPタイプ:寸3 - 1～3番、寸6 - 1～3番 ディスポーザブル鍼LSPタイプ:寸3 - 3番、寸6 - 3番 小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、各種検査器具および物理療法器具、艾、各種温灸、キネシオテープ				
使用 テキスト等	(中和作成)臨床入門、経絡経穴概論				
留意点	患者とのコミュニケーション力を養うことが大切である。				
授業計画	2年次の1月から3年次の12月まで1週間に4コマ程度臨床実習を実施する。 また、学年末休業中及び夏期休業中に終日臨床実習を行う日が数回ある。 2,3年次の期間で180時間以上臨床実習を実施する。				